

新国際開発研究拠点

学際的な国際開発研究－歴史的・構造的・複眼的なアプローチ

【背景】

- ・ 国際開発研究の分野において、かつて「東日本の雄」と言われてきた横浜国立大学のプレゼンス
- ・ 途上国を含むグローバル・イシューに関する研究者が学内に点在



【本研究拠点の研究内容】

- ・ 国際開発研究の原点に立ち戻った、国際協力・開発理論の定立・提示
- ・ 格差、貧困及び暴力の原因を学際的なアプローチから構造的・複眼的に分析・診断
- ・ 形を変えつつ現れる国際開発の諸問題に対して、開発の現場の目線からの「問題解決」の提示
- ・ 開発におけるジェンダー課題
- ・ 国際移動と開発(Migration-Development Nexus)
- ・ 国際開発分野と隣接する貿易、投資、環境、人権・人道、労働及びエネルギー問題等の分野についての有機的な関連性の追求・分析
- ・ 米国、EUなど伝統的なドナーだけでなく、中国、韓国など新しいドナー国の開発協力やODA政策の比較分析
- ・ 日本の開発効力・ODA政策の時代適合的な姿への政策的提言

【研究概要】

- ・ 共同研究の集団ではなく、個人研究の集合体
- ・ 途上国の開発に関心を寄せつつ、ガバナンスそのもの及び関連する諸問題が対象

ガバナンス

○状態としてのガバナンス

それが成立していることで公共財が提供される状態

○機能としてのガバナンス

利害関係者のための規律付けメカニズム

➤ グローバル・ガバナンス

➤ 国家ガバナンス

- ・ 国家政府と、非国家アクター（企業、NGOなど諸団体）のネットワーク化
- ・ 公共部門の経営、政府の説明責任強化、政府諸機関の透明性と情報公開促進、開発の法的枠組みの強化、開発計画への参加型促進、汚職規制、軍事費の過剰支出問題

「途上国の問題は制度ではなく政治なんだよ」

「民主なきガバナンスはあるのか？」

